

報 告

第7回リハエ ミライ・アッセンブリー「リハエおもちゃ箱」にオンライン参加して

内田 忠夫

一般社団法人バラカメディカル 福祉用具事業所『すごかハウスケア』

1. はじめに

2025年5月9日にオンライン（ZOOM）開催された「リハエ ミライ・アッセンブリー」を視聴させて頂いた。一般社団法人日本リハビリテーション工学協会のイベントに参加したのは今回が初めてだったが、管理者として福祉用具事業所を運営する中で地域に対してオープンでありたいと考えていても具体的な成果が挙げられず悶々としていた時に、サブタイトルの「医療、福祉、教育、地域を拓く工夫と技術を集めて」が目飛び込んできて、何かヒントが得られればと参加を申し込んだ。

2. 概要

日時：2025年5月9日（金）19：00～20：30
ZOOM ミーティングにて

2.1 プログラム

- ① イントロダクション 5分
- ② リハ医療現場でのリハ工学の役割 15分
～吉備高原医療リハビリテーションセンター
- ③ 在宅における作業療法士の役割（スマートデバイスの導入例）15分
～訪問看護ステーションおたすけまん
- ④ バリフリBOX ∞で繋げる、広がる人の輪 15分
～徳島県肢体不自由児者父母の会連合会
- ⑤ 頸髄損傷者当回事業所の活動報告 15分
～愛媛頸髄損傷者連絡会

2.2 内容

- ② 吉備高原医療リハビリテーションセンターの取り組みは私にとって大変魅力ある内容だった。多職種に

よるチーム医療を構築しながら計測・解析機器を駆使してデータ収集しつつ福祉機器の開発・商品化にまで及んでいる。これは今あるものをそのまま利用するのではなく、対象者がより使いやすく・生活しやすくなるような配慮に溢れていた。さらにその延長として家庭復帰・社会復帰にもかなり真剣に取り組んでいる様子だった。平面図や段差箇所だけに偏って生活環境を考えがちだが、3DCGを積極的に用いて住宅改造の内容を吟味したり、患者を模したアニメーションが3DCGの家屋内で動くことで実際に住宅改造する前に有用性を確認することができるシステムにはとても驚いたし、このようなシステムがもっと広く使われるようになれば『暮らしやすさ』を獲得するには微妙な調整が必要だと一般の方にも理解が広がるに違いない。

③ スマートデバイスの導入例は頭の固い私には苦手な部分であったが、デジタルと生活の融合が生活しやすさに直結するのを示して下さったのでとても参考になった。苦手意識が働いていたが避けて通れない分野なので今後は積極的に導入していこうと思う。

④ バリフリBOX が何を意味するのか見当もつかなかったが、立場や職種を越えてつながった人たちがとにかく同じ方向を向いて楽しもうとされていて、その活動内容は広範囲ながら今まで着実に実績を重ねて来られて今年度が10周年とのこと。当法人でも地域貢献したいと常々考えてはいるものの実際に具体的な行動を起こせていないので、バリフリBOXの活動内容には大変勇気づけられ、小さなことでもできることから始めて続けていこうと思う。

一般社団法人バラカメディカル
福祉用具事業所『すごかハウスケア』

リアル受講ではなかったがとても印象深い楽しい時間を過ごすことができたので今後も協会の活動には注視していきます。